

第 17 回全国障害者スポーツ大会（愛顔<sup>えがお</sup>つなぐえひめ大会）  
ソフトボール競技実施要領

1 競技規則

平成 29 年度に適用の全国障害者スポーツ大会競技規則（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会制定）によるもののほか、この要領の定めるところによる。

2 チーム

- (1) チームの構成は、監督 1 名、コーチ 2 名以内及び登録選手 15 名以内（男女は問わない。）とする。
- (2) 監督及びコーチが選手を兼ねる場合は、選手名簿に登録されていなければ選手として出場できない。この場合の選手人数は、選手を兼ねる監督及びコーチを含め 15 名以内とする。

3 競技方法

- (1) 試合は、トーナメント方式とし、3 位決定戦を実施する。
- (2) 試合は 5 回までとし、試合開始後 60 分を経過した後は、新しいイニングに入らない。
- (3) 同点の場合は、タイブレーカーにより試合を延長して行う。ただし、延長は 2 回を限度とし、それでも同点の場合は、最終出場選手（DP 制を採用した場合は FP 選手を除く。）9 名の抽選によって勝敗を決する。ただし、決勝戦の延長は勝敗が決するまで行う。
- (4) 3 回終了以降 10 点以上の差が生じたときは、得点差コールドゲームとする。  
また、降雨等の事情により試合の継続が不可能と判断された場合は、3 回以上の回の終了をもってコールドゲームとする。（決勝戦を含む。）
- (5) ファーストピッチにより行う。
- (6) 投球距離は、13.11m とする。
- (7) パスボール、振り逃げ、スクイズバントは適用しない。
- (8) 盗塁が行われた時、該当する走者はアウトとする。  
ア ピッチャーが投球したボールが、ホームベースを通過した時点でボールデッドとし、盗塁、キャッチャーからの牽制、暴投による進塁など、その後のプレーは成立しない。  
イ ランナーが帰塁を故意に遅らせた場合は、審判団から厳重に注意をし、再度繰り返す場合は、審判団の判断で遅延行為によりランナーをアウトとする。
- (9) 指名選手（DP 制）、再出場（リエントリー制）を採用する。

4 服装等

- (1) 同一チームの監督、コーチ及び選手は、同色・同意匠のユニフォームを着用しなければならない。また、男子は同じ帽子を着用しなければならない。
- (2) ユニフォームナンバーは、背中と胸下に付けなければならない。監督は 30

番、コーチは 31・32 番、主将は 10 番とし、他の選手は 1 番から 99 番までの番号とする。また、ユニフォームの左袖（左肩から 10 cm 程度）に都道府県・指定都市名を表示すること。

- (3) 打者、打者走者、走者、次打者席内にいる次打者及び 1・3 塁のベースコーチは、両耳あてのある同色のヘルメットを着用する。また、捕手は、スロートガード付きマスク・捕手用ヘルメット、ボディプロテクター及び膝当て付きレガースを着用する。
- (4) 金属製のスパイクは禁止する。

## 5 試合球

試合球は公益財団法人日本ソフトボール協会検定ゴム製 3 号球とし、主催者が用意する。

## 6 組合せ

組合せは、平成 29 年 8 月に開催する愛顔<sup>えがお</sup>つなぐえひめ大会競技会運営調整会議において、主催者が関係者立会いのもとに代理抽選のうえ決定する。

## 7 打順表等

- (1) 打順表は、試合開始時刻 30 分前までに 5 部作成し、各球場の競技本部へ提出する。  
なお、打順表は監督会議において競技本部から配布する。
- (2) 攻守順の決定は、打順表提出の時に審判員立会いのもと「コイントス」によって決定する。

## 8 開始式・表彰式

- (1) 開始式は、競技開始前に競技会場で行う。
- (2) 表彰式は、競技終了後に競技会場で行い、優勝チームに優勝杯を、3 位までのチームに賞状と、それぞれの選手にメダルを授与する。

## 9 その他

- (1) 平成 29 年 10 月 27 日（金）に監督会議を行い、その場において申し合わせ事項を設けることができる。  
なお、監督会議の時間及び場所については別途通知する。
- (2) ベンチは、組合せ表の番号が若いチームを 1 塁側とする。
- (3) ベンチ内へは、監督、コーチ、選手以外は入場することができない。
- (4) 練習場所については、主催者からの指示に従うものとする。
- (5) 練習球は、各チームが用意する。
- (6) 荒天時他不測の事態が生じた場合の取扱いは、主催者において別途定める。